

「雲錦(香合)」 桜の木を素地に木目が見えるように漆を塗り重ね、高蒔絵で蓋に紅葉を描いた香合。蒔絵の意匠は紅葉ですが、桜の香合であるため、桜の雲に紅葉の錦の意の「雲錦」の銘をつけ、春秋いづれにも楽しめる趣向です。香合の身と蓋の裏側を総梨地仕上げとしています。

「ニギヤカ(香合)」 鶯の切り株の木地に木目が見えるよう漆を塗り重ね、蓋に初夏のひとときを高蒔絵で描いた香合。身と蓋の内側は透ける漆を塗り重ねて木目を景色とし、蝶、蜻蛉、蝸牛、蟻、天童虫が集く様子を銘とした趣向。

「モジイチゴ(香合)」 少年時代の思い出を託した香合です。桜の木地に木目を金蒔絵で描きました。この作品も素材を桜、蒔絵を紅葉苺としており、春秋どちらでも使っていただけます。身と蓋の内側は豪華な総梨地に仕上げました。



高島新

1983年生まれ。2003年蒔絵師の父・高島忍に師事。2009年「うるおい漆展」京都市長賞受賞。2011年「うるおい漆展」京都市長賞受賞。2012年「京もの認定工芸士」認定。2014年「うるおい漆展」京都商工会議所会頭賞受賞。

〒520-0016
滋賀県大津市比叡平1-20-15
TEL&FAX.077-529-2185
Eメール arataday@gaia.eonet.ne.jp

祖父、父とつながれてきた蒔絵の家に育ち、父・高島忍に師事して11年目です。「蒔絵技術をマスターしない限り、新しいことはするな」との祖父の遺言に従い、複雑でかつ繊細な蒔絵の技術を修得中。百年後の蒔絵師たちに刺激を与え、あるいは影響を及ぼすような高度な技術とおもしろみや深みのある趣向で、先人の蒔絵師たちの技とデザイン力、見識に引けを取らないような作品を作っていきたいです。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都市知事から授与される称号。

百年後の蒔絵師の
刺激になるような技を磨く



たかしま
あらた
高島新

京もの認定工芸士 第69号